



Title	『並河潤菊家傳遺物目録』 翻刻および解説
Author(s)	矢羽野, 隆男; 池田, 光子
Citation	懷徳堂研究. 2014, 5, p. 103-133
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50997
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『並河潤菊家傳遺物目録』翻刻および解説

矢羽野 隆男
池田 光子

水哉館もふくめた懷徳堂関係の書籍・器物の所蔵状況を記した目録として、江戸期のものに『天楽樓書籍遺蔵目録』（一八三四年）、『懷徳堂藏書目』（一八四〇年頃か）がある。前者は、履軒の水哉館を継承した袖園が没した天保五（一八三四）年に水哉館の藏書を列挙したもので、履軒の藏書の全容をほぼ正確に伝えるものとされる^①。また後者は、寒泉・桐園による懷徳堂の藏書目録で、碩果（二七七）―一八四〇の没後まもない時期の成立とされている^②。その内容は、後にこれを懷徳堂記念会に寄贈した中井木菟麻呂によると、経書・正史はおおむね唐本、それ以外は和刻本で、おおよその規模は、経部一五〇部、史部七〇部、子部四〇余部、集部百余部、和書八〇部、叢書一部（知不足齋叢書）、計四四〇余部、四一〇〇冊という^③。もつとも、これには竹山・履軒の自筆書き入れ本が見当たらず、塾生の閲覧に供した図書の目録かとさ

れる^④。

その後の幕末維新期、懷徳堂は藏書や器物を手放すほどに財政が窮乏し、版権をもつ板木まで売却するに至った。これを悲嘆した寒泉は売却された遺書を買戻して旧藏書の保存に努めたという^⑤。そして明治二年の閉校の後、懷徳堂の遺品および中井家伝来の遺品は、中井木菟麻呂が受け継ぎ、昭和八年および同一四年の兩次にわたり、都合三二五点の遺書遺物が懷徳堂記念会に寄贈された。『懷徳』一七号（昭和一四（一九三九）年）所収の「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」はその木菟麻呂の寄贈分三二五点に、旧懷徳堂門人の伊藤介夫遺族から寄贈された水哉館遺書四点を加えた三一九点の目録である。

また、これとは別に、懷徳堂記念会では大正五（一九一六）年の重建以来、懷徳堂先賢の著述を購入し、また諸方から寄贈を受けるなど蒐集に努めてきた。こうした

新入手の資料は、昭和一六（一九四一）年の時点で一旦まとめて書目が列挙された。『懷徳』一九号（昭和一六年）所収の「懷徳堂所蔵 懷徳堂先賢著述書目」がそれである。その後、懷徳堂・友の会および懷徳堂記念会では継続的に懷徳堂関係資料の蒐集を進めており、新たに購入・寄贈のあった資料は、その年の『懷徳』の彙報に紹介されている。

一方、中井木菟麻呂が継承した懷徳堂・中井家関係の遺書遺物とは別に、並河寒泉が受け継いだものもあった。閉校後、寒泉は本庄村・南江戸堀・桜宮などで塾を開き、旧門人らに教授を続けたが、最晩年は娘婿の淡輪三郎宅に引き取られ、明治一二（一八七九）年二月に八三歳で没した。その後、寒泉が残した遺書遺物は、独身を通して寒泉に孝養をつくした末娘の閨菊が継承した。しかし、その閨菊も明治二一（一八八八）年一月二七日に四六歳で没したため、京都の並河宗家（当時の当主は尚教（一八〇二—一八九三）、その嫡子が総次郎）へと託された。このあたりの事情を、中井木菟麻呂『懷徳堂水哉館先哲遺事』⁶は次のように記している。「寒泉没して後、女閨菊は尚淡輪氏ト同居シ、岡本和（寒泉門人）ノ紹介ニテ造幣局ノ女学校ニ職ヲ奉ゼシコトモアリシガ、〔閨菊が〕卒シテ後、並河総次郎ノ女ヲ相続者ト為シタレドモ尚幼

ナリシ故、一タビ家ヲ閉ヂテ遺物ヲ宗家ニ保管スルコトトナリタリ」〔下巻「懷徳堂閉鎖後の寒泉」項〕。こうして、寒泉の残した遺書遺物は、並河宗家において尚教から総次郎、さらにその子の誠三郎へと伝えられたが、昭和の初年より、京都帝国大学図書館に仮寄託され、戦後の昭和二八年になって一切が天理大学附属図書館に移管された。現在、天理大学附属図書館には「請求記号125.199」に分類される通称「並河文庫」という一群の並河家旧蔵書が所蔵され、同図書館のOPACでの検索が可能である。内容は寒泉だけではなく京都本家の尚教に関する遺書も多く含む。

さて、今回翻刻して紹介する『並河潤菊家傳遺物目録（内題）』（以下『閨菊目録』）はその「並河文庫」所収の資料の一つである。題目によって、閨菊が父の寒泉から継承した遺物の目録とわかる。ただ目録に記す書名・品名の下に「並河総」の角印が押されており、閨菊自身ではなく、閨菊の死後に託された並河総次郎が保管していた当時の目録とわかる。さらに目録の末尾に、版心に「久迺宮」とある用箋をもちいた別紙三葉（一葉は白紙）を付す。別紙の内容は、中井木菟麻呂が並河尚総に宛てた明治二五（一八九二）年一月一六日付の文書で、「〔東坡集選を挙げて〕右七冊受領」〔五孝子伝など四部を挙げ

て」右 中並所属不明 存疑」「履軒・蕉園ら先賢の遺書一二部を列挙して」右十二部借用致候也」などがある。これから見て、『閨菊目録』は、閨菊から委託を受けた京都並河宗家の総次郎が保管していた寒泉旧蔵の書籍・器物の目録で、明治二十一年から同二五年頃の所蔵状況を示す資料と考えられる。

前述の通り、幕末維新期に懷徳堂の書籍・器物が売却されるなか、寒泉は可能な限り買い戻すなどして保存に努めた。これまで水哉館・懷徳堂の遺書遺物については、江戸期の『天楽樓書籍遺蔵目録』（一八三四年）、『懷徳堂蔵書目録』（一八四〇年頃か）から後、中井木菟麻呂が懷徳堂記念会に寄贈した際の「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」（昭和一四（一九三九）年）、および懷徳堂記念会の蒐集の成果である「懷徳堂所蔵 懷徳堂先賢著述書目」（昭和一六（一九四一）年）までの間、その所蔵状況を知るすがなかつた。この『閨菊目録』はその空白を補う資料となる。

『閨菊目録』および別紙文書を通覧し、現時点で考えられることを以下に記す。まず、別紙文書に「右 中並所属不明 存疑」とあるところから、中井氏の遺品か並河氏のものかその所属を分明にしようという意識があったと思われる。そのような観点から目録を見れば、

記された書名・品名の上に押された「並河」「中井」の丸印はそれぞれの所属を示すものと推察できる。

そこで「中井」丸印のある一三件の書名・品名を調べると、中井木菟麻呂が懷徳堂記念会に寄贈した際の「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」（『懷徳』一七号）所載の遺書遺物との間にいくつか対応が見いだせる。『閨菊目録』の「中井」丸印のあるもの（一）は葉数（aはオモテ、bはウラの意）を表す」と「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」（一）は当該目録の通番号）とを対照させれば次のようになる。

閨菊目録（葉数）

懷徳堂水哉館遺書遺物目録（頁数）

大日本史 一二九十ノ四冊欠 五拾七冊（2b）

懷徳堂本大日本史 六十冊（原本二冊欠）（一〇五）

履軒幣帚 三冊（12b）

履軒幣帚 履軒先生手稿 三冊（二二三）

石窩先生艸稿 壹冊（13a）

石窩草稿 中井碩果先生手稿 一冊（九三）

猿峯復讐象外面 履軒先生賛 壹幅（17b）

履軒先生解師伐袁圖賛 一幅（二二三）

竹山先生福壽艸詩 一幅（18b）

竹山先生咏福壽草詩幅 一幅(一二九)

襄陽帖 一疊(21b)

萬年先生襄陽帖 一帖(三〇六)

萬年先生緩歩帖 一疊(21b)

萬年先生緩歩帖 一帖(三〇五)

木司令 壺掛(27b)

木司令 懷德堂所用 一枚(一七四)

「中井」印のある二三件のうち八件について対応が見いだせ、特に「石窩先生艸稿」から「木司令」までの六件は同一の資料である可能性が高い。これらは後に並河総次郎から中井木菟麻呂の手に渡り、さらに昭和八年および一四年に木菟麻呂から懷德堂記念会に寄贈されたものと考えられよう。

また、別紙文書に木菟麻呂が借用すると記した書籍二部のうち二部に、やはり「懷德堂水哉館遺書遺物目録」との対応が見いだせる。特に前者は同一の資料である可能性が高い。

別紙文書所載の木菟麻呂借用書籍

懷德堂水哉館遺書遺物目録(頁数)

唐詩選俗解 幽人先生自筆 壺冊

唐詩選国字解 履軒先生手稿 一冊(二六八)

炎窓代睡 壺冊

炎窓代睡 蕉園手稿本 一冊(七六)

さらに、木菟麻呂が借用した書籍の残り一〇部のうち七部に、新田文庫(大阪大学附属図書館懷德堂文庫の一部をなす)所蔵の資料との対応が見出させる。先に見たように、木菟麻呂は昭和一四年までに三一五点の遺書遺物を懷德堂記念会に寄贈したが、なお手元に残した書籍や器物があった。それらは木菟麻呂の妹の終子に、そして終子から養女の新田和子氏に受け継がれ、昭和五四(一九七九)年春、新田和子氏から大阪大学附属図書館に寄贈された。このとき寄贈された約四〇〇点の中井家伝来の遺書遺物が「第一次新田文庫」である。以下、木菟麻呂借用の書籍と新田文庫所収書籍(一)は池田作成「第一次新田文庫暫定目録」の整理記号)との対応を記す。

『閨菊目録』別紙文書

第一次新田文庫目録(整理記号)

百首贅々 壺冊

百首贅々(210)

左久羅帖 壺帖

左久羅帖（1帖）（E313/帖38/275）

画觴 壹帖

画觴（E303）

幽人先生反古録（樺翁先生輯） 壹冊

幽人先生反古録（寒泉輯）（E1981）

津問 壹冊

津問（蕉園）（抄本1冊）（E164）

客中雜詩三十首 蕉園先生自筆 壹冊

客中三十首（未定稿）（1冊）（E306）

国字牘 欠本 3冊

竹山先生国字牘（一・五・六のみ）

（文化丙子瀧榮抄本）（E159）

新田文庫本の『百首贅々』は、福島理子・徳原茂実編『百首贅々／百人一首夷曇』（和泉書院〈百人一首注釈書叢刊一八〉、一九九七年）が底本とするものであるが、福島氏解題によると、新田文庫本はもと清水中洲（一七九〇～一八六七）の所蔵で、中洲の手になる奥書には懷徳堂堂主（並河寒泉）、革嶋兵庫（鷹司公臣下）を介して本書を関白鷹司政通の閲覧に供した旨が記され、また革嶋兵庫から並河寒泉に宛てた本書の返却遅延の理由とお詫びとを記した書状が添付されているという。この奥書や

添付書状に加えて、中洲と寒泉とが極めて親密な友人関係であったことから、本書は中洲から寒泉の所蔵に帰したと推察される。さらに、福島氏解題によると、明治二五年一月一日に木菟麻呂は『百首贅々』を博文館から活版で出版しているが、その際に底本とされたものはこの新田文庫本であるという。『閨菊目録』別紙文書によると、木菟麻呂が並河尚総から『百首贅々』を借用したのは明治二五年一月一日で、活版本の出版の十ヶ月前である。木菟麻呂が活版本の底本とした新田文庫本と、並河尚総から借用した並河家伝来の『百首贅々』とは同一のものである可能性は高いといえよう。その他の対照した資料については、資料情報が簡略なので確定的なこととは言えないが、同一である可能性も否定しがたい。

なお、本目録中では借用の形跡が見られない資料の中にも、新田文庫の資料の一つとなっているものがある。前述のとおり、本目録の資料情報が概略的であることに加え、現在の資料名とは異なる可能性が高く、断定は困難であるが、「扶桑木」（本目録2037）や「富士山香炉」（同2038）などは、新田文庫に収められている「扶桑木板」（E381）、「博山香炉」（E3）と同一の資料である可能性は高い。

このことは、木菟麻呂が数度にわたり、「分明」のた

めに並河家と遣り取りをしていたことを示唆している。時代の先後は不明であるが、(一)「中井」丸印押印時点、(二)借用書(別紙文書)執筆時点、(三)本資料に借用の形跡はないが、新田文庫に現存している資料を借用した時点、つまり、少なくとも三度以上、木菟麻呂は並河家に資料を借用し、結果としてその一部が、中井家資料として木菟麻呂の所蔵に帰したのである。

以上をまとめると、『閨菊目録』は、懷徳堂の閉校以後、中井家とは別に並河寒泉が保存継承し、閨菊そして総次郎へと伝えられた懷徳堂の遺書遺物の目録である。ここから寒泉が幕末維新の混乱期に散逸を防ぎ、後世に伝えたとされる資料の具体的な様子が見て取れる。そして、この目録に載せる遺書遺物の一部が後に木菟麻呂の所蔵となり、さらに木菟麻呂から懷徳堂記念会に寄贈された。また一部が木菟麻呂の後、中井終子から新田和子氏へ伝えられ、さらに新田和子氏から大阪大学附属図書館へ寄贈されて、新田文庫として収蔵されるに至ったと推察される。このように『閨菊目録』は、幕末維新の後に懷徳堂の遺書遺物がどのように受け継がれたのかを知るうえで価値のある資料といえる。

最後に、『閨菊目録』の書誌情報を記す。

- 〔数量〕 一冊(①目録、②別紙文書からなる)
- 〔寸法〕 238×16.0cm
- 〔書式〕 ①目録：四周双边、有界、九行、線魚尾の印刷野紙を使用。②別紙文書：四周单边、有界、一九行、線魚尾、版心下部に「久遠宮」とある印刷野紙を使用¹²⁾。
- 〔内題〕 「並河潤菊家傳遺物目録」
- 〔外題〕 「並河潤菊女遺物諸目録」と打付け書き。
- 〔奥書〕 なし。
- 〔印記〕 表紙外題下に「並河」。表紙裏に受入印「天理図書館／236592／平成六年十月廿二日」。
- 〔装丁〕 仮綴、全三三葉(①表紙・裏表紙を除き三〇葉、②末尾白紙一葉を除き二葉)
- 〔蔵書票〕 「125／並199／107」
- 〔備考〕 天理大学附属図書館OPACの書誌詳細情報には、「出版事項：「明治21頃」(1888)」「内容：書籍ノ部、掛幅軸数目録、宗伝器物類目録、衣服類ほか。各物品名の下に「並河総」の印押捺。巻末に明治25年1月16日付並河尚総宛中井木菟麻呂借用書あり。付・明治22年大阪府書記官佐藤暢差出庶第243号通達一通」と記す。出版事項の「明治21年頃」とは、

閨菊死去の頃の成立とするのである。

注

- (1) 湯浅邦弘編著『懷徳堂事典』(大阪大学出版会、二〇〇一年)「天楽樓書籍遺蔵目録」の項(一二五頁)参照。同目録は『懷徳』六九号(二〇〇一年)に翻刻がある。
- (2) 『懷徳堂事典』『懷徳堂蔵書目』の項(一九三頁)参照。
- (3) 『懷徳堂水哉館遺書遺物目録』(『懷徳』一七号、昭和一四(一九三九)年一〇月)参照。
- (4) 前掲注2参照。
- (5) 『懷徳堂考』下巻(五十六)「懷徳堂の財政」参照。
- (6) 大阪大学附属図書館の第一次新田文庫所蔵。引用文の「」は引用者による文意の補足、「」は同じく補注である。
- (7) 黒江一郎『居諸録』に現れた崇祖の精神と二三の日向人「宮崎大学芸学部紀要(人文学部)」第六号、一九五九年)に、並河宗家の血筋を引く羽倉敬尚氏の教示として見える。
- (8) 並河宗家は本名に代々「尚」字を冠す。尚総は総次郎であろう。
- (9) 新田文庫の詳細については『懷徳』五〇号(一九八〇年)を参照。なお、昭和五八年にも寄贈がおこなわれ、それは「第二次新田文庫」とよばれている。
- (10) 「第一次新田文庫暫定目録」(『懷徳堂センター報2004』、

二〇〇四年)、「第一次新田文庫暫定目録(続)」(『懷徳堂センター報2005』、二〇〇五年)

(11) 履軒先生遺文雜集(一九冊一帙のうち一冊)

(12) 久邇宮家は伏見宮家から出た中川宮朝彦親王が明治になって創設した宮家。京都並河宗家は代々伏見宮家につかえる儒医で、中川宮は並河尚美(一七五〇—一八二九)の家で生まれ養育されるなど、京都並河家は伏見宮家・久邇宮家とは浅からぬ縁があった。

本稿執筆に当り、天理大学附属天理図書館には資料の閲覧、翻刻掲載の許可を賜った。ここに記して感謝申し上げる。

本稿は平成25年度 日本学術振興会・科学研究費補助金基盤研究(C)「変革期における大坂漢学の研究—懷徳堂を中心に—」(課題番号22520085、研究代表者・矢羽野隆男)の成果の一部である。

「並河潤菊家傳遺物目録」翻刻

【凡例】

- ・ 原本は縦書きであるが、書誌情報の整理に関する技術的な理由から横書きに改めた。
- ・ 漢字・仮名の字体は、できるだけ目録に使用された字体に近い形を用いた。
- ・ 目録・別紙文書所載の遺物には通し番号を振った。
- ・ 原本の葉数は半葉ごとに区切って「頁」欄に示した。例えば、3a、5bはそれぞれ第三葉オモテ、第五葉ウラの意味である。
- ・ 目録の欄外には、圈点が付されたり、「中井」と刻した丸印、「並河」と刻した丸印が押されたりする。圈点・中井丸印・並河丸印のあるものには、それぞれの欄に○印を付した。
- ・ 目録の欄内には、遺物名称、補足書入れ、数量を記すほか、遺物名の上下に角印が押され、また圈点が付されるものもある。二つの角印のうち、上の印は字形が判読できず「某印」とした。下の印は「並河総」と刻す。角印・圈点のあるものには、それぞれの欄に○印を付した。「某印」の印影は図の通りである。大方の

ご教示を賜りたい。

・ 目録の欄外下にも圈点を付すものがある。圈点のあるものには、その欄に○印を付した。

・ 備考欄には、目録の欄外上に記された書入れや、翻刻者による補足情報などを記した。

・ 目録部分の備考欄の補足情報として、当該資料が「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」（『懷徳』17号）所載の資料と対応するものには同目録の通番号を記した（「懷水遺目○○」と表示）。また、当該資料が新田文庫所収の資料と対応するものには、池田作成「第一次新田文庫暫定目録」の整理記号を記した（「田○○」と表示）。別紙文書部分の備考欄の補足情報として、当該資料が「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」所載の資料と対応するものには同目録の通番号を記し（「懷水遺目○○」と表示）、また新田文庫所収の資料と対応するものには、「第一次新田文庫暫定目録」の整理記号を記した（「田○○」と表示）。また当該資料が目録部分に見えるものには本目録の通番号を記した（no.○○○と表示）。



図 「某印」印影

No.	頁	上欄外				欄内			並河 角印	欄内書入	数量	下欄外		備考
		園点	中井 丸印	並河 丸印	番号	某印		並河潤菊家傳遺物目錄 書籍ノ部				数量 園点	園点	
1a														
1					一	○		李花集	○		貳冊			
2					一	○		大學墨搦帖	○		壹量			
3					一	○		樺翁老人古稀書画帖	○		壹量	○		
4					一	○		方正學先生集	○		拾冊			
5					一	○		太平記	○	三四欠	貳拾冊			
6			○		一	○		測鑑類函目錄	○		全			
7 lb			○		一	○		雙陰集	○		拾壹冊			
8					一	○		四書五經不全書	○		八冊			
9					一			牛駝之箱						
10					一	○		北野茶會記	○		全			
11					一	○		質疑篇	○		全			
12					一	○		言忘晚錄	○		全			
13					一	○		養生訓	○		八冊			
14 2a					一	○		伊洛淵源錄	○		八冊			
15					一	○		柔遠錄	○		八冊			
16					一	○		海防錄	○		全			
17					一	○		海防彙議	○		九冊			
18					一	○		新刊用字格	○		四冊			
19					一	○		赤穂義人録補	○		貳冊			
20					一	○		環海異聞	○		八冊			
21 2b					一	○		常山記談	○	内五冊闕	廿五冊			上欄外書入 「三四五六十一」
					一	○		世説	○	二冊不足	拾冊			

No.	頁	上欄外		欄内		逆河 角印	欄内書入	数量	下欄外		備考
		園点	中井 丸印	逆河 丸印	番号	某印			数量	園点	
22					一	○	近思録	○			
23					一	○	百品考	○	二編		
24					一	○	梅陰詩稿	○			
25					一	○	雙蕤書	○			
26					一	○	同龢議補	○	三欠		
27					一	○	瑣語	○			
28					一	○	博愛堂集古印譜	○			
29			○		一	○	大日本史	○	一二九十六四冊欠		懷水遺目105
30 ^{3a}					一	○	日本文鈔	○			
31					一	○	續近世畸人傳	○			
32					一	○	百品考	○			
33					一	○	桐陽詩鈔	○			
34					一	○	漂民筆語	○			
35					一	○	大橋上書	○			大橋訥庵の上書か
36					一	○	夷船渡來諸録	○			
37					一	○	志州田曾清船漂着記	○			
38 ^{3b}					一	○	弘化丙午閏月浦賀着實船記	○			
39					一	○	仙石家一件扣	○			
40					一	○	仰出写	○			
41					一	○	百姓治郎吉女房 御褒美一件	○			
42					一	○	壽三郎書翰	○			
43					一	○	仙臺侯蝦夷警衛録	○			
44					一	○	英吉利渡來應接始末	○			
45					一	○	大塚同庵海防議	○			
46 ^{4a}					一	○	鎔鐘鐸砲令	○			

47					—	○	書翰雜聞録	○		壹冊			
48					—	○	東譜夫論	○		三冊			
49					—	○	橋本周碩上水府書	○		壹冊			
50					—	○	川勝建議	○		壹冊			
51					—	○	江戸井河族譜	○		壹冊			
52					—	○	家祖先生遺牘	○		壹冊			
53					—	○	並河氏畧譜	○		壹冊			
54	4b				—	○	松前乃消息	○		全			
55					—	○	五ヶ国見聞録	○		全			
56					—		漂異記畧	○		上下			
57					—	○	墨書并答書	○		壹冊			
58					—	○	華夷對話	○		全			
59					—	○	蘭歌風説	○		全			
60					—	○	天竺物語	○		全			
61					—	○	謨烏爾陳情書	○		上下			
62	5a				—	○	雜聞録	○		壹冊			
63					—	○	墨約俗解	○		全			
64					—	○	長崎對話	○		全			
65					—	○	安蘭風抄	○		全			
66					—	○	嘉寅聞録	○		全			
67					—	○	万申聞録	○		全			
68					—	○	慶寅聞録	○		上下			
69					—	○	慶卯聞録	○		全			
70	5b				—	○	安巳聞録	○		全			
71					—	○	安申聞録	○		上下			
72					—	○	文酉聞録	○		全			
73					—	○	文亥聞録	○		五冊			
74					—	○	乙卯聞録	○		全			

No.	頁	上欄外			欄内						下欄外	備考
		園点	中井 丸印	並河 丸印	番号	某印	並河 角印	欄内書入	数量	数量 園点	園点	
75					一	○	安末聞録		○			
76					一	○	元子聞録		○	四冊		
77					一	○	慶丑聞録		○			
78	6a				一	○	安辰聞録		○			
79					一	○	安午聞録		○			
80					一	○	安卯聞録		○			
81					一	○	文茂聞録		○			
82					一	○	嘉永甲寅聞録		○			
83					一	○	丙辰紀行		○			
84					一	○	獻策 上巻		○			
85					一	○	盡忠録		○			
86	6b				一		閑窓獨語		○			
87					一		仙石家珍事		○			
88					一		菅公年譜		○			
89					一		隅哭		○			
90					一		客中雜詩		○			E306
91					一		鳩巢先生文集		○	上巻冊欠		
92					一		地震突涛		○			
93					一		川角大閤記		○			
94	7a				一		春秋左傳		○	不足本		
95					一		墓碑考		○			
96					一		蒲生智閑集		○			蒲生智閑は室町後期の公家、 和歌に優れる
97					一		光平筆記		○			
98					一		木棉譜		○			

99					—		殘櫻記	○			全			
100					—		弘安礼節	○			全			
101					—		楠判官正成兵庫記	○			全			
102 7b					—	○	嘉永甲寅大地震津波録	○			全			
103					—	○	並河五一翁和歌	○			全			
104					—	○	南里遺稿	○			四冊			
105					—	○	隸辨	○			上下			
106					—	○	孔子家語	○			五冊			
107					—	○	顏氏家訓	○			全			
108					—	○	日記故事大全	○			全			
109					—	○	通鑑學要	○			拾五冊			
110 8a					—	○	唐詩訓解	○			四冊			
111					—	○	藥品手引卅	○			上下			
112					—	○	增補訓蒙圖画	○			拾冊			
113					—	○	拾遺狂言記	○			五冊			
114					—	○	画入狂言記	○			五冊			
115					—	○	女源氏教訓鑑	○			一冊			
116					—	○	紹述先生著	○			五冊			
117					—	○	易本義	○			上下			
118 8b					—	○	平語	○			拾貳冊			
119					—	○	通鑑地理通釋	○			全			
／					—		唐詩訓解				四冊			
120					—	○	孝経	○			全			
121					—	○	節用集	○			全			
122					—	○	画入太閤記	○			拾壹冊			
123					—	○	續狂言記	○			五冊			
124					—	○	和歌薈塵	○			三冊			
125 9a					—	○	古今和歌集	○			上下			

No.	頁	上欄外			欄内			下欄外			備考	
		圈点	中井丸印	並河丸印	番号	某印		並河角印	欄内書入	数量		数量 圈点
126		○			一	○	唐詩選		○	壹冊		
127					一	○	世說新説		○	拾冊		
128					一	○	蒲生事記		○	六冊		
129					一	○	称呼辨正		○	貳冊		
130					一	○	寔陰集		○	拾壹冊		
131		○			一	○	四書輯疏		○	拾四九冊		
132					一	○	聚分韻畧		○	上下		
133 9b					一	○	日記故事		○	全		
134					一	○	陳白沙集		○	六冊		
135					一	○	唐本四書		○	貳部		
136					一	○	增補字林玉篇		○	貳冊		
137					一	○	莊子		○	拾冊		
138					一	○	雍州府志		○	拾冊		
139					一	○	世範		○	三冊		
140					一	○	字海便覽		○	七冊		
141 10a					一	○	五經集傳		○	五拾八冊		
142					一	○	大和本艸		○	九冊		
143					一	○	雲上明覽		○	上下		
144					一	○	文天祥集		○	拾冊		
145					一	○	八大家文鈔		○	拾壹冊		
146					一	○	訓俗遺規		○	四冊		
147					一	○	隨園詩話		○	拾冊		某印を手書き消す
148 10b					一	○	賦鈔箋畧		○	八冊		
149					一	○	兵要録		○	四冊		
149					一	○	養小録		○	全		

150				一	○	甘雨亭叢書	○	第一集	八冊		
151				一	○	文抄	○	唐本	四冊		
152				一	○	小本四書	○		六冊		
153				一	○	陵墓一隅抄	○		全		
154				一	○	碧岬	○		全		水戸の原南陽の通俗医学書
155				一	○	白石遺文拾遺	○	下巻	壹冊		
156	lla			一	○	隨園詩話	○		拾冊		
157				一	○	唐詩品彙	○		全		
158				一	○	東征集 西上記	○ ○	小本共 小本貳冊有	四冊		両書とも竹山著。懷徳堂文庫に刊本一部貳冊、写本二部貳冊、計四冊あり。
159				一	○	蘇黄尺牘	○		六冊		
160				一	○	甘雨亭叢書 貳集	○		八冊		
161				一	○	邊生八牋	○		拾四冊		明の高濂の養生書
162				一	○	武鑑	○		六冊		
163				一	○	書画一覽	○		全		
164	llb			一	○	戎政要書	○	小本	全		
165				一	○	詩韻輯要	○	小本	全		
166				一	○	一夜百首	○	祇南海	全		
167				一	○	写本古文尚書	○		拾三冊		
168				一	○	雪玉集	○		不全		
169				一	○	蝦夷奇觀	○		貳冊		
170				一	○	夷国畧品	○		貳冊		
171				一	○	住吉百首	○		全		
172	l2a			一	○	南山遺岬	○		三冊		
173				一	○	元和日記	○		貳冊		
174				一	○	政談	○		四冊		
175				一	○	夢ノ志路	○		拾貳冊		

No.	頁	上欄外		欄内		並河 角印	欄内書入	数量	下欄外		備考
		園点	中井 丸印	並河 丸印	番号	某印			数量	園点	
176					一	○	康熙字典	全部			
177					一	○	写本逸史	拾三冊			
178					一	○	御戦場記	三冊			
179					一	○	糸圖	全			
180 12b					一	○	咏歌大要	貳冊			
181					一	○	南山巡狩録	貳拾冊			江戸中期の国学者・大草公弼の著
182					一	○	大本論語	壹冊			
183					一	○	年山随筆	四冊			江戸中期の国学者・安藤年山の随筆か
184					一	○	吉籙漫録	貳冊			明の呉廷翰の著
185			○		一	○	履軒繫帶	三冊			懷水遺目 223
186					一	○	竹山先生國字牘	三冊			E159
187					一	○	秋齋	全			
188 13a		○			一	○	石菴先生呻吟稿	壹冊			懷水遺目 93
189					一	○	名言記	三冊			
190					一	○	西山遺事	貳冊			水戸の安積寛の著
191					一	○	蛻巖先生文集	壹冊			
192					一	○	史記年表	全			
193					一	○	誠恵君年記	三冊			誠恵は寒泉の父並河尚誠の諱
194					一	○	高嘉囑録	全			
195					一	○	親鸞國字傳	貳冊			
196 13b					一	○	大鳥筆記	三冊			
197					一	○	勇功記	貳冊			
198					一	○	翹楚篇	全			

199					—	○	窓ノすさみ	○											
200					—	○	筆 ^カ 貞集	○											「筆」は「簾」か。簾集は寒泉編輯による中井碩果の詩文集。埴集は寒泉編輯による中井蕉園の詩文集。
201					—	○	白氏長慶集	○											
202					—	○	唐詩正聲	○											
203					—	○	天民遺言	○		壹冊欠									
204 14a					—	○	禁殿屏風録	○											
205					—	○	白鹿洞書院揭示	○											
206			○		—	○	近思録	○											
207					—	○	匪夷犯境録	○											
208					—	○	國語定本	○											
209					—	○	大坂所傳記	○											
210					—	○	浪速上古畠説	○											
211					—	○	多つた考	○											
212 14b					—	○	家庭指南	○											
213					—	○	神社考	○											
214					—	○	一柳家記	○											
215					—	○	金城間見録	○											
216					—	○	貞丈雑記	○											
217					—	○	國語韋昭注	○											
218					—	○	善庵隨筆	○											江戸中期の儒者・朝川鼎の著
219					—	○	薺畊録	○											
220 15a					—	○	春秋左傳系譜	○											
221					—	○	論語考文	○											
222					—	○	日記故事大全	○											
223					—	○	羣書類集	○											
224					—	○	官襲沿革畧	○											

No.	頁	上欄外			欄内			逆河 角印	欄内書入	数量	数量		下欄 外	備考
		圈点	中井 丸印	逆河 丸印	番号	某印					圈点	圈点		
225					一	○	文野	○		全				
226					一	○	道灌隨筆	○		全				
227					一	○	幕朝年中行事歌合	○	上	壹冊				
228	15b				一	○	國語	○		五冊				
229					一	○	養生論	○		壹冊				
230					一	○	禮記紀聞	○	二卷不足	拾三冊				
231					一	○	書經金丹	○		三冊				
232					一	○	明律解	○		七冊				
233					一	○	五畿内史 ^ヤ	○	二十四冊	壹箱				
234					一	○	非言茶話	○		上下				室鳩巢の著
235					一	○	巖園夜話	○		上下				江戸前期の兵学者・大道寺 友山の著
236	16a				一	○	荀且獨語	○		四冊				著者未詳の地誌
237					一	○	礼記金丹	○		九冊				
238			○		一	○	東坡集	○		八冊				
239					一	○	正字通	○		四拾冊				
240					一	○	古本論語集解	○		一冊				
							以上 蔵書							
							惣計貳百三拾九目録							
							掛幅軸数目録							
241	16b				一	○	成良王御咏	○		壹箱	○	○		鎌倉-南北朝期の皇族
242				○	一	○	文麗大洲老侯画	○	加藤文麗、名泰都、 任伊豫守、江戸人	一箱	○	○		上欄外書入「谷文晁ノ師ナリ」
243					一	○	朝鮮明李如松書大幅	○		一箱	○			
244		○		○	一	○	誠所天民孝恭三先生俗牘	○	三幅	一箱	○	○		

245	○		—	○	源義家望雁図	○	中井藍江画、 蕉園先生賛	一箱	○	平成8年度に懷徳堂記念会 が購入して収集。「中井藍江 筆、中井蕉園賛『騎馬武者図』 一幅」『懷徳』65号彙報
246			—	○	竹山蕉園両先生答允子牒	○		一箱		
247	○		—	○	五孝子傳		画一鷺菴幽甫守雅 詞	一幅	○	
248			—	○	閨苑獅子牡丹図	○		一幅	○	
249 17a	○		—	○	岳公自賛	○	中井藍江ノ画	一幅		
250			—	○	鳩巢先生俗牒	○		一幅	○	
251		○	—	○	鷺尾亜相藤公賜詠	○		一箱	○	
252		○	—	○	阪府西尹久須美君竹自画自讀	○		一箱	○	
253			—	○	蕉園先生寒濤樓記	○		一箱	○	
254	○	○	—	○	関月千破城画	○	履軒先生賛	一箱	○	
255			—	○	誠所先生懷紙	○		一箱		
256	○		—	○	大石山科寓居証書	○		三通	○	上欄外書入「義士」
257 17b		○	—	○	劉玄德携屣鞋図	○		一幅	○	
258			—	○	竹山自作元日詩	○		一幅	○	
259		○	—	○	猿峯復讐象外面	○	履軒先生賛	壹幅	○	懷水遺目132
260			—	○	樂翁大公寶松国雅	○	文泉画	一幅	○	
261	○		—	○	懷徳堂記草稿	○		一幅	○	
262	○		—	○	石大夫興寺井玄溪書	○		一幅	○	上欄外書入「義士」
263			—	○	蕉園先生新竹古詩	○		一幅	○	
264			—	○	伏水王賜院	○		一幅	○	
265 18a			—	○	豹圖	○	柳河画某古写	一幅	○	
266			—	○	小兒曳旆母之繒錢図	○	竹山先生賛	一幅	○	
267			—	○	松村喜兵衛書状	○		一幅	○	上欄外書入「義士」
268		○	—	○	萬年先生山静一行	○		一箱	○	
269			—	○	五井先生扇面	○		一箱	○	

No.	頁	上欄外			欄内			逆河 角印	欄内書入	数量	数量		下欄 外	備考
		圈点	中井 丸印	逆河 丸印	番号	某印					圈点	圈点		
270					一	○	燕沢碑里末清俊書墨搦	○		一幅				
271					一	○	鷹司閔白政通公自画讀	○		一幅				
272					一	○	竹山先生寄竹和歌	○		一幅	○			
273 18b		○			一	○	大石大夫書院	○		一幅	○			上欄外書入「義士」
274		○			一	○	楠政季俗院	○		一幅	○			
275					一	○	馬牧亭安禮宿奈和歌	○	翁時歲九十三	一幅	○			馬杉亭安は京都の歌人
276			○		一	○	竹山先生福壽艸詩	○		一幅	○			懷水遺目129
277				○	一	○	文明先生書院	○		一幅	○	○		
278					一	○	望玉嬪梅画	○	堀南湖賛	一箱	○	○		
279					一	○	藍江鸞蛇紙画	○		一	○			
280					一	○	西洞院風月老公賜書	○		一幅	○	○		
281 19a					一	○	蒲関月葡萄画	○		一幅	○			
282					一	○	履軒先生屏風歌	○	古歌	一幅				
283				○	一	○	周峯蘭画	○	周峯、字貴信、号鐘秀藤、浪華人、有画名	一幅	○	○		
284		○		○	一	○	狙仙狙画	○	森祖仙、名守象、字叔牙、浪華人、能畫猿	一幅	○	○		
285					一	○	藍江年魚画	○		一幅				
286					一	○	観瀾先生文	○		一幅				
287					一	○	神護寺鐘銘	○		一部				
288					一	○	華胥國門額	○		一箱				E1
289 19b					一	○	竹山先生破幅	○		一幅	○			
290					一	○	蕉園先生詩	○		一幅	○			
291					一	○	巨川先生咏	○		一幅	○			

292					—	○	三宅先生書	○			一幅	○		
293					—	○	油巷従一位隆前御和歌	○			一幅	○	○	油小路隆前
294					—	○	小紋図	○			一幅	○	○	
295	○		○		—	○	明汪海雲画	○	汪肇、字徳初、 号海雲		一幅		○	
296					—	○	羅山先生国牘	○			一幅	○		
297 20a					—	○	阿童誕生の賀詩	○			一幅			
298					—	○	朱文公肖像	○	左近衛將監土佐 中興之相光起ノ筆、 落髮号常昭		一幅	○		上欄外書入「光季七世ノ祖」
299					—	○	官賞命辭	○			一幅			
300					—	○	福富岬紙	○			二卷	○		
301	○				—	○	加藤清正公肖像	○			一枚	○		
302					—	○	秋田敦冬葉打摺写	○			一枚			
303					—	○	御船宝来之図	○			一枚			
304					—	○	関羽之肖像	○			一枚			
305 20b					—	○	石大夫万夜遊之図	○			一枚			
306					—	○	孝女ハツ像	○			一枚			
307					—	○	竹山先生書	○			七枚			
308	○				—	○	万国一覽	○			一箱	○		
309					—	○	探冊掛	○	軸数惣六十二幅		一幅			
310					—	○	釋尊図	○			一卷			
311					—	○	鳥居強右衛門図	○			一枚			
312					—	○	雷鼠之図	○			一枚			
313 21a					—	○	祖来詩会之図	○			一枚	○		祖来は徂來か
314					—	○	山水之図	○			一枚			
315	○				—	○	孝子万吉像	○			一枚			

No.	頁	上欄外		欄内		並河 角印	欄内書入	数量	下欄 外		備考
		圈点	中井 丸印	並河 丸印	番号	某印			数量	圈点	
316				一	○	孔聖像	秀信筆、柳雪齋卜 号之、外記卜称之、 三宅尚齋賛	一枚	○		上欄外書入「狩野柳雪秀信、 寛文十二年七月十一日卒之」
317				一	○	多賀城碑石摺		一枚			
318				一	○	郡国之図		一箱			
319				一	○	桜帖		一疊			
320				一	○	面觿		一疊			
321 21b		○		一	○	反古帛帖		二疊			
322				一	○	聆禪閣帖	第一	一疊			
323				一	○	雜著合卷		共二冊			
324				一	○	寒禱額		一掲			
325				一	○	探冊箱		一箇			
326		○		一	○	襄陽帖		一量			懷水遺目 306
327				一	○	本朝往古沿革圖說		一量			
328		○		一	○	萬年先生緩歩帖		一量			懷水遺目 305
329 22a				一	○	休復額		一掲	○		
330				一	○	武經		一部			
／						以上					
／						文書画題二拾九名					
／											
331				一	○	家傳器物類目錄		一脚			
332				一	○	一閑張大几案		一脚			
333 22b				一	○	講書几		一泓			
334				一	○	大硯		一泓			
334				一	○	自然石硯		一泓			

335					—	○	帶剣		○	長短	三腰			
336					—	○	居合刀		○		一腰			
337					—	○	剣術稽古具足		○		一筒			
338					—	○	真鍮几上置獨臺		○		一個			
339					—	○	行燈銅油皿 _{三ツ} 銅享盆		○		一枚			
340					—	○	染付伊万里重箱	箱破損	○					
341	23a				—	○	潤色塗吸物椀	十人前	○		一箱			
342					—	○	桐几案		○		一脚			
343					—	○	見書几	引出付	○		一脚			
344					—	○	中碗		○		一泓			
345					—	○	古銅獸形小滴		○		一箇			
346					—	○	懷剣		○		一帯	○		
347					—	○	木刀	一握山崎賽假借 請未反	○		二本			
348					—	○	大石大夫剣意自由燭		○		一本			
349	23b				—	○	鐵長短文鎖	共	○		五			
350					—	○	武力油次添		○					
351					—	○	茶呑碗	十人前	○		一箱			
352					—	○	鯛染付焼魚皿	十人前	○		一箱			
353					—	○	色絵陶徳利		○		一本			
354					—	○	猪口ニッ入		○		一箱			
355					—	○	登龍銚子		○		一箱			
356					—	○	緑覆輪魚皿		○		九枚			
357	24a				—	○	猪口類種々合数		○		十四			
358					—	○	木皿	大小	○		共二十			
359					—	○	古茶碗入		○		一箱			
360					—	○	硝子菓子盆		○		一箱			
361					—	○	紫泥焼振出壺		○		一箱			

No.	頁	上欄外			欄内			逆河 角印	欄内書入	数量	数量 園点		下欄 外	備考
		園点	中井 丸印	逆河 丸印	番号	某印								
362					一	○	古銅象眼火入	○		壹ツ				
363					一	○	葵草釜焼付猪口	○		一箱				
364					一	○	墨塗盃臺朱盃添	○		一具				
365	24b				一	○	土器	○		一箱				
366					一	○	吸物膳	○		五枚				
367					一	○	新庵茶吞碗	○	二十八前	一箱				
368					一	○	土器菓子皿	○		一箇				
369					一	○	嵐山焼菓子盆	○		一箱				
370					一	○	色蒔絵菓子盆	○		一箱				
371					一	○	桑引 出付提烟草盆	○		一				
372					一	○	錫水吞	○		一箱				
373	25a				一	○	天目臺	○		一ツ				
374					一	○	蒲池焼火鉢	○		一箱				
375					一	○	張貫八角墨塗銘々盆	○		一箱				
376					一	○	扶桑木	○		一箱	○		E381	
377					一	○	琉球製印箱	○		一提				
378					一	○	赤染茶碗	○	川東香爐二ツ、 蓋金一ツ入	一箱				
379					一	○	茶碗	○		一箱				
380					一	○	銅鑪水指	○		一箱				
381	25b				一	○	富士山香炉	○		一箱			E3	
382					一	○	探冊掛	○		一箱				
383					一	○	染焼盃臺	○		一ツ				
384					一	○	蒲池焼火入	○	二ツ	一箱				
385					一	○	蒔絵執行厨	○		一ツ				

386				—	○	外糸内桐引箱印入	○		一提		
387				—	○	節木形陶水指	○	七十二翁陶白鷗連	箱破損		
388				—	○	茶碗	○	二ツ入	一箱		
389	26a			—	○	貫之古梅香盆	○	一ツ	箱破損		
390				—	○	銅鐘小湯錐	○		一ツ		
391				—	○	蟻ノ香炉	○		一箱		
392				—	○	探冊挾	○		二種		
393				—	○	琉球朱雲箱	○	内反故紙入	一箱		
394				—	○	薩摩華縁菓子盆	○		一枚		
395				—	○	乾堂作染花生	○		一ツ		
396				—	○	武力小菓子入	○		一ツ		
397	26b			—	○	墨香	○		一ツ		
398				—	○	反古紙入手箱	○		六ツ		
399				—	○	小形柳枝籠挾箱	○		一荷		
400				—	○	小長持		内種ゝ入			
401				—	○	挑灯箱	○	内古提灯杯入	三ツ		
402				—	○	桐洞圓火鉢	○	五徳鉄瓶火挾添			
403				—	○	拂子	○	白大	一箇		
404				—	○	染焼菓子入	○		一ツ		
405	27a			—	○	黄葉手建水	○		壹ツ		
406				—	○	焼貫灰炮	○		壹ツ		
407				—	○	書陣紙種々入	○		一櫃		
408				—	○	柳條筆	○	古裂在中	三ツ		
409				—	○	古半櫃	○	内品物入	壹ツ		
410				—	○	唐石茶碗	○		壹ツ		
411				—	○	爐助炭	○		壹ツ		
412				—	○	籠炭斗	○		式ツ		
413	27b			—	○	桐引几床	○		壹		

No.	頁	上欄外		欄内		逆河 角印	欄内書入	数量	下欄 外		備考
		圈点	中井 丸印	逆河 丸印	番号	某印			数量	圈点	
414					一	○	陣笠	二蓋			
415			○		一	○	木司令	壹掛			懷水遺目174
416					一	○	厘等科科	壹棹			
417					一	○	詩仙堂竹花生	壹筒			
418					一	○	黒塗花板	壹枚			
419					一	○	狭山池樋釘	壹本			
420					一	○	藜杖	壹本			
421	28a				一	○	枕屏風	六枚折			
422					一	○	鏡立鏡	二面添			
423					一	○	橡搦吐茶碗				
424					一	○	看籠	内物入			
425					一	○	桑狐矢掛板	壹枚			
426					一	○	茶杓	貳筒			
427					一	○	藤魚盆	壹枚			
428					一	○	淀車釣瓶花生	壹ヶ			
429	28b				一	○	晴雨天傘共	三本			
430					一	○	縫衣針尺箱	一具			
431					一	○	長箱	壹組			
							以上 惣計百壹数				
							衣服類				
432					一	○	伏見宮御遺物御袍	一具			
433					一	○	仙臺平袴	一具			
434					一	○	紋付黄帷子男衣	一着			
435	29a				一	○	細綿袷	一衣			
436					一	○	單衣御召調子	一枚			

No.	頁	上欄外		欄内		並河 角印	欄内書入	数量	下欄 外		備考
		圈点	中井 丸印	並河 丸印	番号	某印			数量	圈点	
	31a					(白紙)					無割線
	31b					(白紙)					無割線
	32a										以下、版心下部に「久遠宮」と 印刷の用箋を使用
				一		東坡集選		八冊			no.238
						内巻冊欠					
						右七冊受領					
				一		五孝子傳		壹軸			no.247
				一		書經金丹					no.231
				一		札記金丹					no.237
				一		国字牘	欠本	三冊			no.186
						右中並所屬不分明	存疑				
	32b			一		百首贅々		壹冊			E210 カ
				一		左九羅帖		壹帖			no.319 E313
				一		画牘		壹帖			no.320 E303
				一		幽人先生反古録	樵翁先生輯	壹冊			E198-1
				一		唐詩選俗解	幽人先生自筆	壹冊			懷水遺目 268
				一		名物弁解雕題		壹冊			
				一		津間		壹冊			E164
				一		客中雜詩三十首	蕉園先生自筆	壹冊			no.90 E306
				一		炎窓代睡		壹冊			懷水遺目 76
				一		虞書閨月沈註譯解		壹冊			

33a			一	諭叢		京師并河氏藏			no.186 E159
			一	国字牘		欠本 但中並所屬 不分明ノ分	三冊		書名左肩に△印有り
				右十二部借用致候也					
				明治二十五年一月十六日					
				東京市神田区小川町五十七番地					
				中井本宛書 (「中井」印)					「中井」印は目録上欄外の丸 印と同じ
				井河尚總縁					
			一	蕉園碩果二先生壙誌					書名右肩に△印有り
			一	蘭洲先生家譜					
33b				(記述なし)					
34a				(記述なし)					
34b				(記述なし)					

『懷徳堂研究』第6号 投稿規定

懷徳堂研究センターでは、『懷徳堂研究』第6号の原稿を下記の通り募集しています。

募集する原稿

- ・懷徳堂およびその周辺領域の研究に関する論考。
- ・懷徳堂研究センターの活動に関わる論考。

締切

- ・二〇一四年一〇月末日（必着）。

枚数

- ・四百字詰め原稿用紙に換算して五〇枚以内。
- ・ただし目録・翻刻などで大部なものは枚数の超過を認めることがある。

形式

- ・打ち出し原稿および電子データ（WORDファイル。太郎ファイルも可）。

採否

- ・懷徳堂研究センターへ郵送または直接提出のこと。
- ・懷徳堂研究センターによる審査を経て採否を決定し、執筆者へ通知する。

校正

- ・著者校正は再校まで。

- ・念校は懷徳堂研究センターにて行う。

刊行形態

- ・二〇一五年二月刊行予定。
- ・関係機関や研究者に配布する。
- ・刊行物と同内容の電子ファイル（PDF）を本誌刊行一年後から懷徳堂研究センターHP、及び大阪大学機関リポジトリ（OUKA）にて公開する。

抜刷

- ・執筆者には本冊二部および抜刷三〇部を贈呈する。
- ・追加の抜刷を希望の場合は、初校返送時に連絡し、その実費を執筆者が負担する。

ご不明な点は懷徳堂研究センターまで御照会ください。

懷徳堂研究センター彙報

二〇一三年二月二八日『懷徳堂研究』第4号を発行。
懷徳堂研究センターの職員等は以下の通り。

（二〇一三年四月～二〇一四年三月）

- ・センター長 湯浅邦弘（本研教科教授）
- ・研究員 金城未来（本研教科助教）
- ・職員 福田一也